



かみね動物園は開園60周年！

日立市かみね動物園は昭和32年(1957年)6月5日に産声を上げ、今年で開園60周年を迎えます。もともと市民の憩いの場として先に整備されていた神峰(かみね)公園の一角に、当時の上野動物園長だった古賀忠道さんの指導を受けてオープンしたのですが、当初は二ホンザルやヤクシカ、ツキノワグマなど4種7点の展示による無料開放でした。しかし翌年のインドゾウ導入を皮切りに有料施設とし、その後トラ、ライオン、ラクダ、アシカなど次々と動物を入れ、4年後の昭和36年には60種160点まで展示数を増やしていきました。また、昭和42年には隣接する市民球場を動物園用地に含め、開園当時約20,000平方メートルだった敷地は約42,000平方メートルまで増え、拡張部分を北園という名称でキリンやサイ、カバなど大型獣のエリアとして整備していきました。入園者数もうなぎ上りに上昇し、北園が完成した昭和45年には45万人の来園者で賑わうまでになりました。



《開園当時の動物園》

しかしその後、バブル崩壊とともに来園者数は減少に転じ、平成10年代は20万人台までに落ち込み、一時は県へ身売りの話も出るまでになりました。来園者の減少は、施設の老朽化や少子高齢化、レジャーの多様化など、この時期大体どこの動物園も経験していたようで、旭山動物園の再生は全国から注目が集まりました。そんな折、昨年11月に物故された櫻村元市長が動物園改革を英断し、平成19年の開園50周年を機にリニューアル事業が始まりました。事業は、チンパンジーの森を皮切りに、ゾウ放飼場拡張、ふれあいプラザ、新ペンギンプール、サルの楽園、クマのすみか、新キリン舎、新シカ舎、などなど毎年のように園内に槌音が響き、その間には東日本大震災も経験し、一部獣舎の被害により新たな小獣舎なども建設されました。こうした新施設オープンに呼応するかのよう到来者数も再び上昇に転じるようになり、多くのお客様から「動物園は変わりましたね」という言葉を頂きました。



「チンパンジーの森オープンでの榎村元市長」

そして平成29年、開園60周年です。この10年間、多くの施設が更新されてきました。しかし、まだまだ古い施設はあります。また、動物園に対するお客様の価値観も大きく変わってきました。これで満足、という次元にはまだまだありません。これまでの10年間の踏み台に新たな動物園づくりを目指していかなくてはなりません。



「リニューアル後の入園口」

手始めに、平成29年度から60周年記念獣舎として「はちゅうるい館」整備に着手します。これまでの事業は施設更新でしたが、この施設は全く新しい施設です。これは爬虫類と市の鳥ウミウの複合施設で、動物園職員の提案から生まれたものです。しかし爬虫類に対するお客様の期待には大きいものがある、と常日頃から感じています。また、当園でも数種類の爬虫類を展示していますが、分散展示となっています。このため施設を1か所に集約しながら展示種数を充実したものにし、来園者に爬虫類の世界という新たな「かみね」の魅力を伝える施設となるでしょう。30種を超える爬虫類の展示は初めてのことで、計画する私たち職員も設備関係などを他園に問い合わせたりと、四苦八苦しながらもワクワクして工事に備えているような状況です。

また、そのほかの老朽獣舎も検討していかなくてはなりません。「楽しく入って、学んで出られる動物園」これからも楽しみは続きます。皆様も60周年を機に、ちょこっと昔を振り返りながら、これからの「かみね」に期待を寄せてください。

※動物園では開園60周年にあわせ、記念のロゴマークを作成しました。このロゴマークは、2014年7月に当園で行った「Zoo Jeans (ズージーンズ)」というプロジェクトを企画した(株)I&S BBDOの宮本拓也さんにデザインして頂きました。かみね動物園の人気動物「アジアゾウ」を60の形にかたどり愛嬌をもたせたものです。これからオリジナルグッズやちょこちょこ顔を出しますので、お見知りおきのほどよろしくお願ひします。

「ズージーンズについてはこちら」

www.city.hitachi.lg.jp/zoo/blog/encho/blog201407.html (新しいウィンドウが開きます)



《60周年記念のロゴマーク》

2017年3月26日

茨城大学との共同研究報告会が開催されました

以前、このコラムでも紹介しましたが当園では昨年度から茨城大学さんと、共同研究を行っています。 <http://www.city.hitachi.lg.jp/zoo/blog/encho/blog201610.html>

動物園の役割の一つに「研究」があります。動物の行動や生態、習性などを研究しながら繁殖や飼育環境向上に役立てようとするものですが、飼育や獣医業務の合い間を縫いながらの仕事となり、当園では飼育員は通常の飼育以外に教育普及（イベント企画・実施）や広報活動なども行っており、現実的には、朝から夕方までぎっちり仕事の詰まった状態での研究業務というのは時間的・物理的に難しいものがあります。確固たる調査やデータ収集・分析を通じた体系的裏付けが必要とは感じていても、結局は日々の観察から動物の状態を把握し飼育に役立っているのが現状です（当園では）。



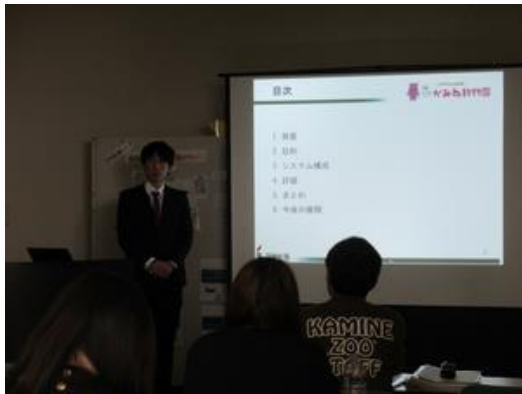
《今年の共同研究報告会（以下写真は今年のもの）》

そんな時、茨城大学農学部生物生産学科の小針准教授から、折角同じ茨城にある動物園と大学、連携して何かできないでしょうか、という話がありました。大学としては学生さんの研究テーマとして地元の動物園動物という優れた教材があり、動物園としても前述したように飼育面で追求したい問題が山ほどありました。両者の思惑は完全に一致！話はとんとん拍子に進み、大学と連携した共同研究は27年度からスタートしました。



「食肉目の異常行動制御研究」

27年度は「草食獣における外部寄生虫による侵襲ストレスの評価と防除対策」（簡単に言うと「クロサイにサシバエが集って大変なので何とかしたいの」）や「飼育下アジアゾウにおける敵対状況の分析と改善策の検討」（簡単に言うと「2頭のメスのゾウが喧嘩ばかりするので何とかしたいの」）のほか、工学部からも「来園者を対象とした情報提供スマホアプリの研究開発」など4つのテーマで研究が進行し、一定の成果があがりました。



「動物園総合支援システムの研究開発」



「アビシニアコロブスの栄養学的研究」

そして今年度も以下のテーマで研究が行われ、その成果の発表報告会が3月8日にありました。小針准教授の研究室からは「飼育下の食肉目における異常行動制御に関する調査研究」、同じ学科の豊田准教授の研究室からは「アビシニアコロブスの栄養学的研究」、工学部生体分子機能工学科北野准教授の研究室からは「フラミンゴの雌雄判別及び家系分析」、教育学部郡司准教授の研究室からは「中学校及び高等学校における生物進化の教材開発と実践」、工学部情報工学科石田講師の研究室からは「動物園業務総合支援システムの研究開発」といづれも学生さんや院生さんが次々と発表、園側も、すぐにでも飼育や業務に応用できそうなテーマのため活発に質問や意見が交わされました。日動水ではよくこうした研究会が開かれますが、そうした場で発表しても遜色のない内容となっていたと思います。



「チリーフラミンゴの雌雄判別及び家系分析研究」

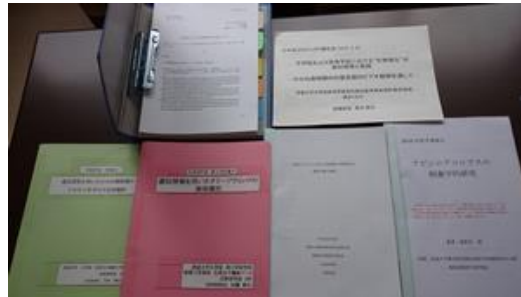


《中学・高校の生物進化の教材開発研究》

すべてをここで紹介することはできませんが、例えばヒグマとツキノワグマの異常行動を解析するために肉眼での行動観察のほかビデオカメラでの撮影と2次元DLT法という移動軌跡や移動距離などを画面上で判別できるシステムの活用や、フラミンゴの雌雄判別・家系分析ではミトコンドリアDNAを利用した母系系統解析など、豊富な資機材や研究環境を背景にデータの収集と分析、総括が行われました。動物園ではどう逆立ちしてもできない仕事です。研究成果はこれから飼育現場にフィードバックされることとなりますが、報告会の後に行ったご苦勞様を兼ねての先生や発表者との交流会でも、こうした連携をこれからも続けていこうと意気が上がったところです。



《飼育員も釘づけ》



《報告書あがる》

個別の成果や飼育現場での対応など機会がありましたらまたこの欄で紹介していきたいと思いますが、小針先生初め研究室の皆様、まずはご苦勞様でした。この場を借りてお礼申し上げます。

今後とも引き続きよろしくお願いいたします。

2017年3月9日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)